

2 子どもの状況

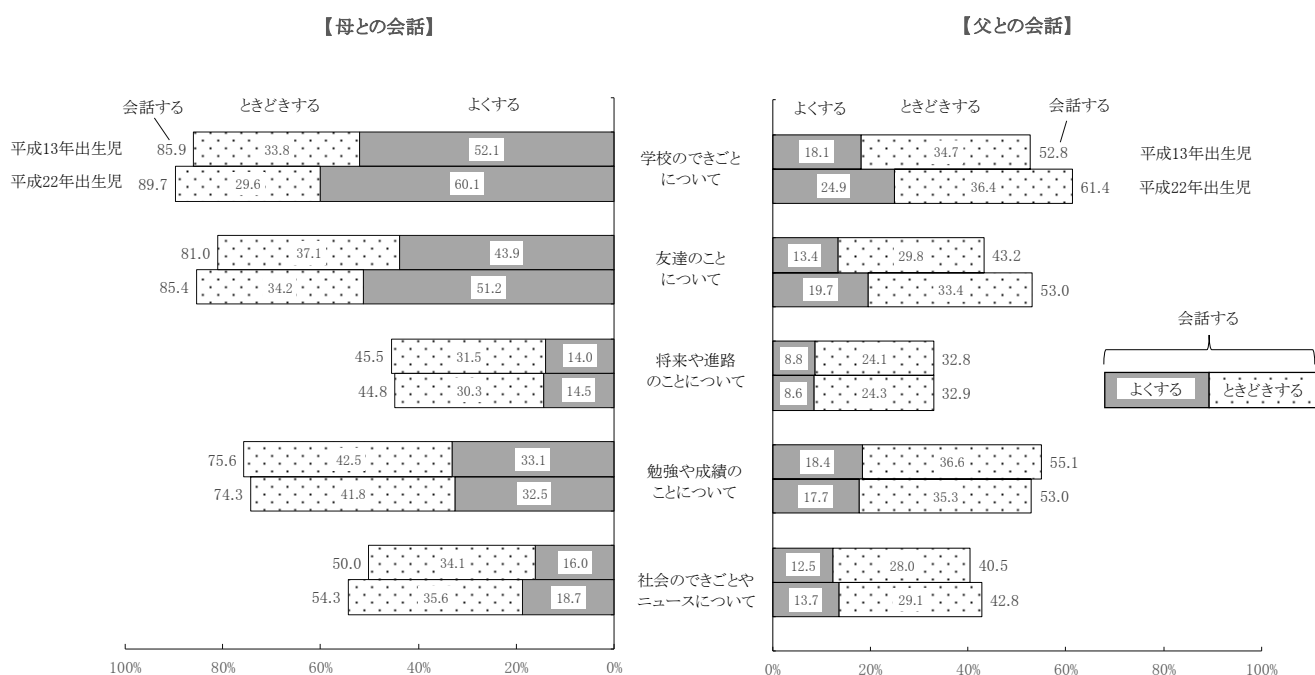
(1) 家庭での会話

母、父と会話をする割合を平成13年出生児と比べると、母、父ともに「学校のできごとについて」「友達のことについて」が上昇している

平成22年出生児について、母、父と会話をする（「よくする」「ときどきする」）割合は、「学校のできごとについて」が母89.7%、父61.4%と最も高く、次いで母では「友達のことについて」が85.4%、父では「友達のことについて」「勉強や成績のことについて」が53.0%と高くなっている。

平成13年出生児と比べると、母、父ともに「学校のできごとについて」「友達のことについて」「社会のできごとやニュースについて」が上昇している。また、父との会話では「友達のことについて」が9.8ポイント、「学校のできごとについて」が8.6ポイント上昇しており、母との会話と比べて、父と会話をする割合が大きく上昇している。（図3）

図3 母、父との会話の割合の変化・世代間比較



注：第13回調査の回答を得た者のうち、母との会話は母と同居している者（平成13年出生児総数29,793、平成22年出生児総数20,229）、父との会話は父と同居している者（平成13年出生児27,117、平成22年出生児18,739）を集計。

(2) 将来（進路、結婚、最初の子どもを持つ時期）

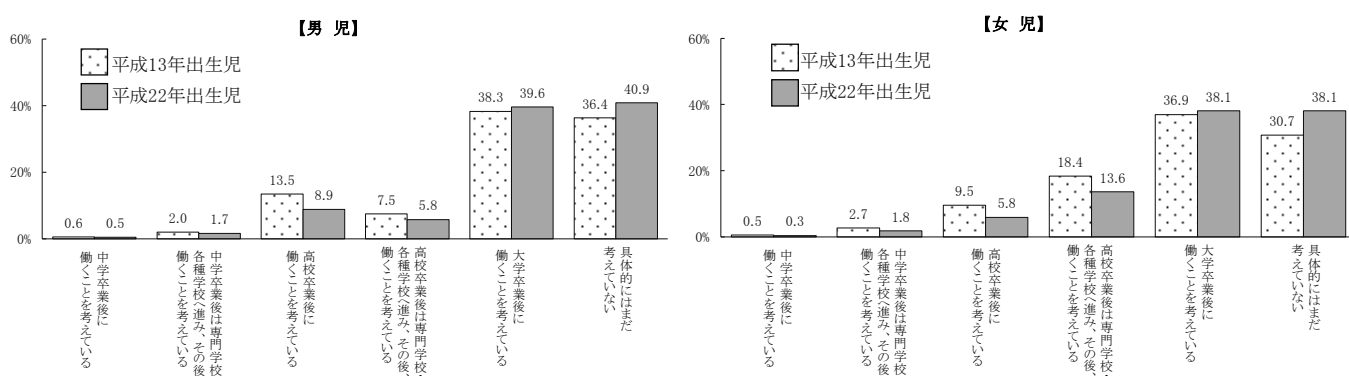
子ども自身が考える将来は、男児・女児ともに「具体的にはまだ考えていない」の割合が最も高く、平成13年出生児と比べて上昇している

子ども自身が考える将来（進路、結婚、最初の子どもを持つ時期）は、男児・女児ともに「具体的にはまだ考えていない」の割合が最も高い。これを平成13年出生児と比べると、「具体的にはまだ考えていない」はいずれの項目でも上昇している。

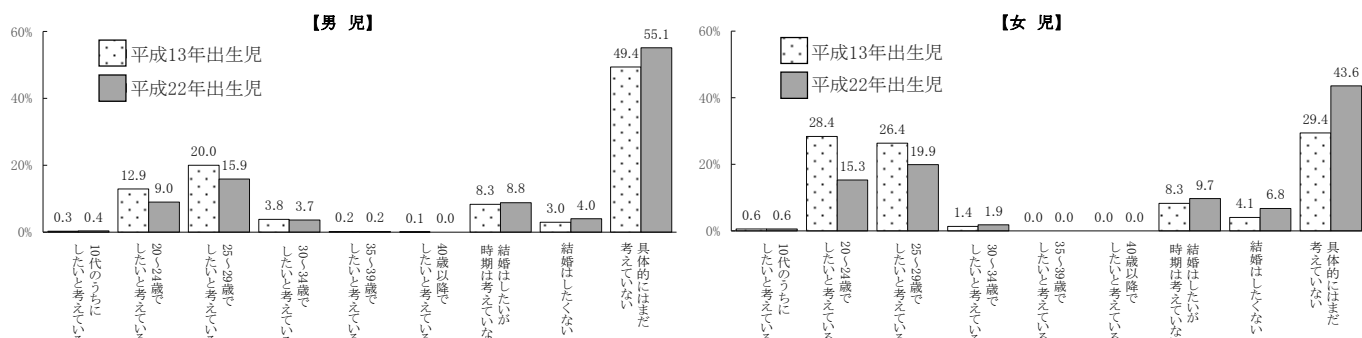
また、「具体的にはまだ考えていない」以外の回答をみると、「進路」では「大学卒業後に働くことを考えている」、「結婚」では「25～29歳でしたいと考えている」、「最初の子どもを持つ時期」では「25～29歳で持ちたいと考えている」が、男児・女児ともに高くなっている。（図4）

図4 子ども自身が考える将来の世代間比較

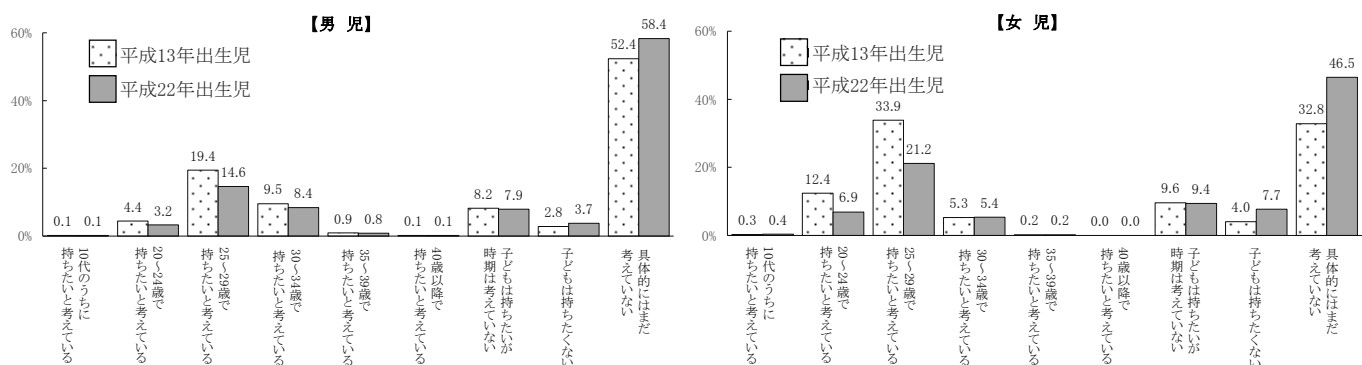
【進路について】



【結婚について】



【最初の子どもを持つ時期について】



注：第13回調査の回答を得た者（平成13年出生児男児15,663、女児14,668、平成22年出生児男児10,622、女児10,208）を集計。

(3) 将来就きたい職業・子どもに将来就いてほしい職

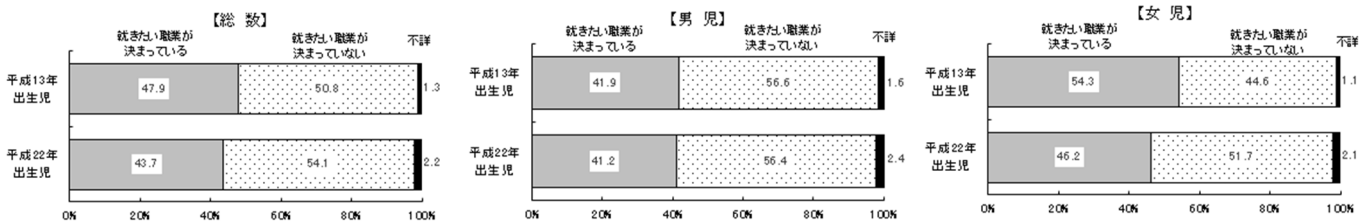
将来就きたい職業が決まっている子どもがその職業に就きたい理由は、「自分の興味や好みにあっているから」の割合が最も高く、保護者が子どもに将来就いてほしい職も、「子ども自身が望む職」の割合が最も高い

平成 22 年出生児について、将来就きたい職業が決まっている子どもの割合は 43.7%と、平成 13 年出生児の 47.9%と比べて、4.2 ポイント低くなっている。これを性別にみると、男児が 41.2%、女児が 46.2%となっている（図 5）。

さらに、将来「就きたい職業が決まっている」と答えた子どもについて、子どもがその職業に就きたい理由と、保護者が子どもに将来就いて欲しい職をそれぞれみると、男児・女児ともに「自分の興味や好みにあっているから」（子ども）・「子ども自身が望む職」（保護者）の割合が最も高く、次いで「自分の能力や適性が生かせるから」（子ども）・「本人の才能を生かせる職」（保護者）となっている。

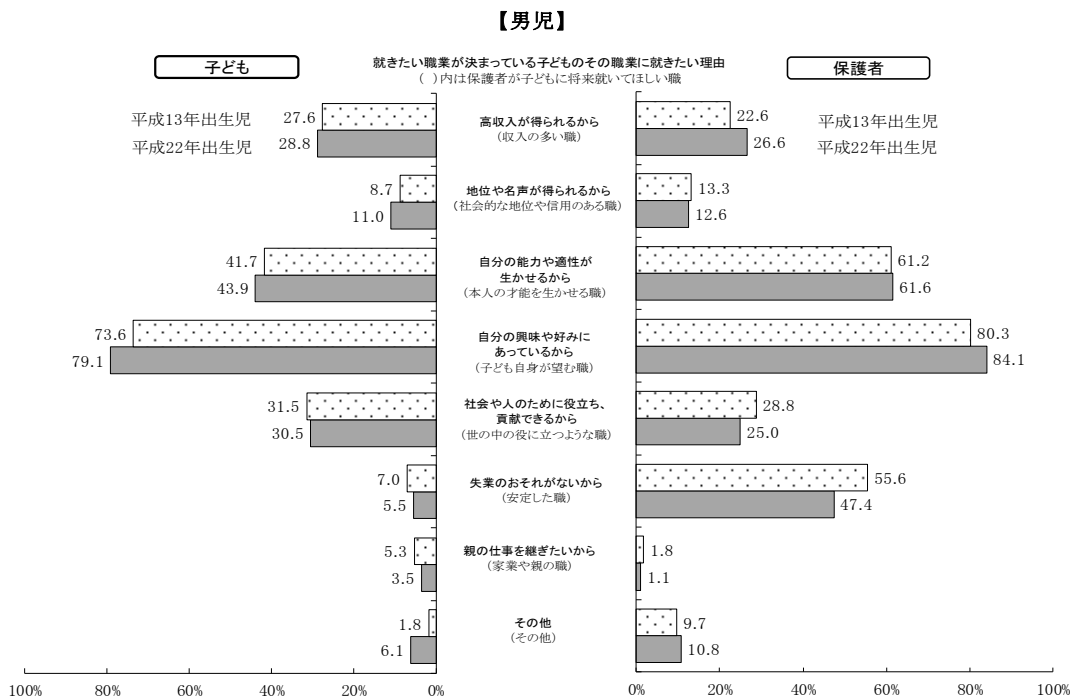
一方、子どもと保護者で違いがみられるのは、「失業のおそれがないから」（子ども）・「安定した職」（保護者）で、男児・女児ともに保護者の割合が高いのに対し、子どもの割合は低くなっている。（図 6）

図 5 子どもの将来就きたい職業の有無の世代間比較



注：第 13 回調査の回答を得た者（平成 13 年出生児総数 30,331、男児 15,663、女児 14,668、平成 22 年出生児総数 20,830、男児 10,622、女児 10,208）を集計。

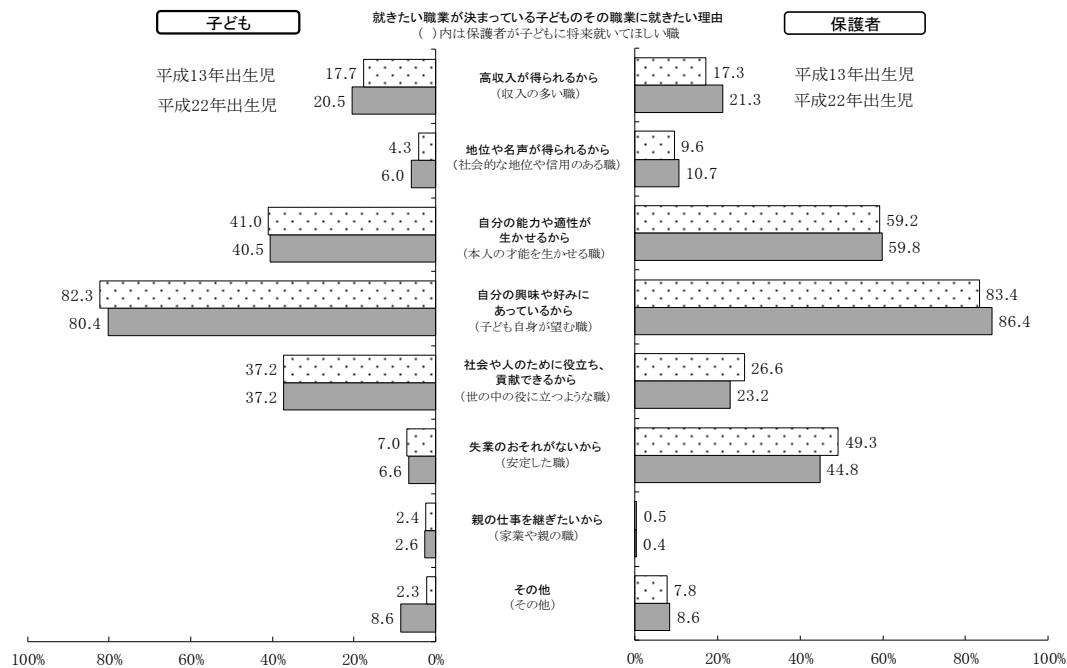
図 6 子どもが将来その職業に就きたい理由（複数回答）と保護者が子どもに将来就いてほしい職（複数回答）の世代間比較



注：1) 第 13 回調査の回答を得た者のうち、「就きたい職業が決まっている」と回答した者（平成 13 年出生児男児 6,559、平成 22 年出生児男児 4,375）を集計。

2) 保護者の「その他」には、「職は問わない（とにかく働いてほしい）」「その他」を含む。

【女兒】



- 注：1) 第13回調査の回答を得た者のうち、「就きたい職業が決まっている」と回答した者（平成13年出生児女児7,964、平成22年出生児女児4,719）を集計。
2) 保護者の「その他」には、「職は問わない（とにかく働いてほしい）」「その他」を含む。